

2025 年度第5回地層処分ワークショップ on ZOOM 主催:特定非営利活動法人放射線線量解析ネットワーク  
みゆカフェの説明 みゆカフェ オン・ライン (2025 年 12 月 14 日)

3. みゆカフェとは ◆活動の目的と方法

目的:合意形成のための障壁を下げること  
合意形成に必要なコミュニケーション

- 自分の意見を述べる
- 他者の意見を聞く
- 双方の異なる意見と、お互いを知る
- お互いの共通点を知る
- お互いの意見や考えを広げ、深める
- 問題点や課題を抽出し、解決しようとする
- 考えをまとめ、伝える
- 継続して考える

2019年度(2020/01)実施

5班編成で25分、6班編成で30分程度の活動です。

みゆカフェ 実際の活動風景

2025/12/14 13:30~14:00 地層処分ワークショップ みゆカフェ チームEEE 菅浩子

3

リスクコミュニケーションの一つとして  
4. みゆカフェをやってみよう

考えを膨らませる3つの方法

Whole approach (ホールアプローチ)

①全体の中から外へ

Gestalt's approach (ゲシュタルトアプローチ)

②外から全体の中に

2025/12/14 13:30~14:00 地層処分ワークショップ みゆカフェ チームEEE 菅浩子

4

③(①と②を使って)外部性の影響を考える

外部性の影響 ⇒ ある人の行動が周囲の人の経済的行動に、お金に関係なく影響を及ぼすこと。1つのテーマから、外へ外へ影響が繋がること。プラスにもマイナスにもなる。 自分に跳ね返ってくることもある。例えば...

連想ゲームのように考えを広げる

2025/12/14 13:30~14:00 地層処分ワークショップ みゆカフェ チームEEE 菅浩子

考えを膨らませる3つの方法

①起こりうる影響を考える(中心から外に向かって)  
②いろいろな側面から考える(外から中心に向かって)  
③外部性の影響を考える(連想ゲーム型)

忘年会(飲み会)で思いっきり(アルコールを)飲むか否か

①起こりうる影響

- ガンガン呑むと
- 楽しい
- 呑みすぎると嘔吐する
- 酔って気持ち悪くなる
- 二次会、三次会で友好を深める
- 次の日、覚えていない
- ...

②いろいろな側面

- 今日まで頑張った
- 皆と飲むのは楽しい
- 呑みすぎると嘔吐する
- 二次会、行きたい
- 次の日、覚えていない
- 家で家族が待っている
- ...

③連想ゲーム型(外部性影響)

- 今日は飲み会/忘年会だ→a. お酒も料理も良い!→c. 食べ過ぎるかも→d. 太るかも→e. 飲みすぎるかも→f. 二次会に行きたくなくなるかも→g. 終電を逃すかも→h. タク車とお金がかかるかも→i. 過去の外部性影響 明日→参加して親睦を深めれば日々の業務がしやすくなるかも→呑みすぎて帰らぬ人になるかも→

2025/12/14 13:30~14:00 地層処分ワークショップ みゆカフェ チームEEE 菅浩子

6

実践 みゆカフェ

RadNet20251214-みゆカフェ-実践.pptx - PowerPoint Hiroko MIYUKI HM

ファイル ホーム 挿入 描画 デザイン 画面切り替え アニメーション スライドショー 校閲 表示 ヘルプ ACROBAT 何をしますか 共有

自分が関心があることを伝える

若い世代が関心のある人/ものに手伝ってもら。コラボ?

興味のある話題から話を始める

原子力は怖いイメージ。一般ごみから自分の住んでいる所に来たらという話がある

関心がないことも認める

アニメや動く細胞のような分かりやすいもの。マンガなどがあるとよい。怖い、知りたくない、気持ちをうけとめる

1. 関心の薄い若い世代に伝えるためには? 若い世代への伝え方

難しい言葉を使わない

考えたご褒美があると耳を傾ける。電気代が安くなる。

SNSのショート動画などで端的に伝える

関心が薄いのは若い世代だけ? 具体的に若い世代とは?

興味のある話題からアプローチするのがよい

日常生活に結びつける

若い世代=同世代。原子力など色々なアプローチ(政治や地域)をすることで興味がある話題から始める

『マイクラフト(ゲーム、仮想的な場を作る)で、処分地を完成予想図が見えるようにする』

“興味がない、知らない”と責められている

“若い世代だから”をなくす

2025/12/14 13:30~14:00 地層処分ワークショップ みゆカフェ チームEEE 菅浩子

3

直接関係ない、と考える人でも、考えようとしていることは受け入れる

なぜ賛成、なぜ反対を言い合える場を用意する

候補地は、候補地の人だけの問題でなく、日本全体の問題と考えられるように、環境を整える

候補地自治体の問題ではなく、“日本”全体の問題であるという意識醸成の機会が必要

当事者意識を持つのは難しい

ネット投票、AIで分析させる

2. 処分候補地に賛成もやりたくない人候補地への賛成反対をどう判断すべきか

賛成もやりたくない人っている? みんな電気代に預かっているの?

廃棄物を生み出した社会の一員として当事者意識を持つべき

何で? 自分の意見を大切に

賛成もやりたくないけど、電気を使っているので候補地の人たちの考えも聞いて欲しい

社会全体の問題だと考えるのが重要

第3者の安全も考えなければならない

賛成反対を決められない人も、候補地の近さでなく、どちらかの考えをもったことを求める。

安全性や倫理的観点への第三者チェックとして重要

2025/12/14 13:30~14:00 地層処分ワークショップ みゆカフェ チームEEE 菅浩子

4

専門家の当たり前は当たり前ではない

言ってもわからないではなく、伝える努力を怠らない

“知らないことが悪”ではなく科学者の歩み寄りが必要

科学者、専門家も、それ以外のひとと協働すると考え伝える努力ができるようにする

安全だけを伝えるのではなく、課題、不確実要素、それに対するアプローチについても正直に開示する

専門家は用語だけでなく自分たちでわかりやすく丁寧に説明すべき

責任はみなで分かち合う。

3. 学者の社会的責任: 科学者からのアプローチ、説明責任について

正しき市民の納得を重視する

- なんとなく直接聞きづらいイメージがある
- 匿名質問とかで答えて欲しい

難しいことだからこそ、誰でもわかる手が必要

今の安全だけで語らない

小学生程度でも分かるような説明ができる場があるといい

一般の人と同じ視点で考える

結果だけでなく、背景説明を省略しないで前後関係を説明してほしい

科学者にやわらかな雰囲気作りが必要

研究、技術開発が社会にどう役立つのか、どうしたら受け入れてもらえるかを研究目的の段階から意識する

2025/12/14 13:30~14:00 地層処分ワークショップ みゆカフェ チームEEE 菅浩子

5

自分ごととして考えた手ごたえが重要

自分ごととして考える経験数を多く持つ

“自分事”として考える事自体が難しい

自分ごととして考えた人が聞いた、本当に自分ごとの人、保める!いいね!結果や内容は知らない

自分の生活と結びつける

普段使う電気が、問題の出発点になっている

候補地の人と話すことが重要。その話を他の人とも共有すること身近に感じられることが大切

4. 自分ごととして考える事 (自分の未来や社会全体に関わる問題として捉えること。)

自分の想像がしかるべく、地域住民の話を直接聞ける場を増やしたいこと

シミュレーションゲームで将来どうなるかを疑似体験

必要性を自覚しやすい?

自分ごとと他人の事の違いは自分では気づきにくい。多くの人と交流する

今の選択が将来世代の負担になる可能性になる

問題を先送りにした場合、経済的・社会的・精神的な負担が残る

選択をしないことが、将来に対して問題を押し付けることになるのでは

答えを出すより、どのように向き合ったかが大切

自分の未来は誰かと共に作り出すもの、だから共に考えることが自分ごととして考えることになる。とやさしく話す。

2025/12/14 13:30~14:00 地層処分ワークショップ みゆカフェ チームEEE 菅浩子

6

メディアの立場が左右され、正しく伝えられない。

書き物で手に取って読めるような方法があるといい

若い人はインスタとかTwitterで悪い話を切り取って流す人がいる。発信元の情報がどこから来たか判断する方法が必要

伝える側の信頼性が大事

人は事実より信頼感で判断する

信頼感の相違:環境重視?経済重視?

5. 正しい知識をどう伝えるか、伝え広めるか:メディアを通して

発信者の意図

メディアの意図や情報を取捨選択してしまおう

どういうメディア?

新聞?テレビ?SNS?どの程度信頼できる?

信用できる人の投稿? 専門家の意見

原子力専門家のインフルエンサー?

専門家でもいろいろな立場の人がいる

発信者の肩書に左右されやすい。

伝える側と情報を受け取る側の教育が必要

伝える側⇒原子力に対する理解

受け取る側⇒情報はいくつもの側面、いろいろな情報を集める癖をつける

同じテーマの異なる信頼感を伝える

発信する立場になってみる。大丈夫?かな、と考える経験をもつ。一記事の後追い記事を確認する

2025/12/14 13:30~14:00 地層処分ワークショップ みゆカフェ チームEEE 菅浩子

7

外部講師を呼んで中2、3年生に概念を教えるのがいい。担任とか理科の先生はきちんと教える。グループワークなどでみんなが分かるのがいい。

中学生は原子力は授業でほとんど扱わないので、外部の先生を呼んでグループワークやディスカッションできる場がよい

● 小学校高学年より早く出てくる事実を知ってもらう

● 中学エネルギー問題として扱う

● 高校エネルギー、地層処分、リスクについて扱う

のように段階ごとに学ぶ

放射線の知識は理科、対話等は探求の授業のように内容により分ける

6. 教育現場を利用して伝えると、”when(何年生から)”, ”where(どの教科で、どこで)”, ”whom(誰が)”, ”what(内容、レベル)”, ”how(どのように)”と 其々の考える回答と課題

先生(教える側)の負担を減らす

⇒先生の教育、外部講師制度などの構築

学ぶ(意味)と学ばせる(意義)が明確であると、伝える授業ができる

総合的な学習の時間でレントゲン撮影の原理的なところから放射線の性質を教える。そこから身体を通り抜ける性質を理解してもらい、悪影響も教える

あと、最終で放射線を見てもらうとか

原子力施設が身近にない地域(小中学生(早い段階)から話を進める)

学校で文化講演会や有名人を呼ぶことが効果的

2025/12/14 13:30~14:00 地層処分ワークショップ みゆカフェ チームEEE 菅浩子

8